



第10期 加東市民人権講座(第2回)

差別は明治維新後もなぜ残ったのか？ —映像で見る人権の歴史—



【講師紹介】上杉 聰（うえすぎ さとし）さん

1947年、岡山生まれ。1970年、上智大学文学部哲学科卒業後、高校教師となる。関西大学文学部講師を経て、大阪市立大学人権問題研究センター特任教授となる。

主な著書：『明治維新と賤民廃止令』『これでわかった！部落の歴史—私のダイガク講座』『これでなっとく！部落の歴史—続・私のダイガク講座』『よみがえる部落史』『脱ゴーマニズム宣言』『脱戦争論』他

【講演趣旨】 明治維新でほんとうに四民平等になった？

明治以降もなぜ部落差別は残ったのでしょうか。また、いわゆる解放令（賤民廃止令）が出されたのに、なぜ部落差別は残ってきたのでしょうか。部落問題には「迷信」がいくつもあると上杉さんは言われます。「穢多・非人」に関する布告もその一つで、原文には「布告」とあるだけで、「解放」の文字はどこにもありません。「解放令」と呼ばれるようになるのは50年後のことでした。そこで、上杉さんは、研究に基づく厳密な呼び方として「賤民廃止令」と呼ばれています。去年は、部落差別の起源から江戸時代の身分制についてお話いただきました。今年度は、近代社会においても「部落差別」が存続した構造を映像作品をもとに分かりやすく講演いただきます。

日時 平成28年9月3日(土)

19:00~21:00

場所 東条文化会館(コスミックホール)

参加料無料・託児あり

※受講生以外の方でも、自由にご参加いただけます。

※託児を希望される場合は、2週間前までにお申し込みください。

問い合わせ： 加東市教育委員会人権教育課 TEL 0795-43-0544